

2023 年度教育活動における学校評価報告書

2024 年 3 月 31 日

学校法人聖公会栄光学園聖アルバン幼稚園

園長 成田 綾子

学校関係者評価委員会

はじめに

◎自己評価の実施にあたって・・・

当園では、『保育のみちしるべ』（日本聖公会東北教区教育・保育グループ編集）をもとに、教育課程を編成しています。

今年度の主題は「主と共に歩む～愛されているわたしたち～」です。子どもも保育者も「違い」を認め合い、イエスさまを中心に歩んで行きたいと願っています。

日々の保育の中で、私たち保育者は、子どもたちが、わくわくする体験ができるよう「つなぐ」という役目が大切です。そのためには、保育者同士も心をつなぐ、また思いをつなぐ、チームとして保育をより良いものにしていくための努力を重ねていきたいと思っています。

今回は、そのことを踏まえながら“KPT”という手法を用いて自己評価を行うこととし、それに先立ち、職員会議にて、子どもたちのいいね👍先生のいいね👍を出し合うなど、互いによく聴き合い、思っていることを素直に出して話し合う場を設けました。子どもたちを認めるように、自分たちも他の保育者から認められる事で、自己を肯定しながらも自分を見直す場となり、その事を経験値とし、次へのステップへと意欲を持って歩んで行くきっかけとなったようです。

その後にKPT（自己評価）を行い、最後に、当園が大切にしている“朝の集会”、“主体的活動（遊び）”に注目し、CHECK（どのように取り組み、達成度はどのくらいか）を行いました。

学校評価委員会では 2 月中旬に、以下の内容、またお家の皆さまからのアンケート結果などもお示しし、ご意見もいただきましたので、自己評価とともにご報告（公表）いたします。

① 職員間で子どもたち、先生たちの“いいね”を出し合う。（ホワイトボードにて）

② KPT法では・・・

『KEEP』＜保育者として“できた”、これからも続けていきたいこと＞

- ・アルバンが大切にしている、一人一人に寄り添うことを大切にできた。
- ・保育の中で楽しい場面を作り、互いに笑い合い、保育を楽しめた。
- ・保育をよりよい物にしていくために、会議などで意見を出し、行動に移し、実行できた。
- ・子どもたちの表情や行動の一つ一つに目を向ける。
- ・園長への報連相、また、クラス間での連携。
- ・子どもたちからたくさん元気もらい、休まず仕事をがんばれた。

『PRBLEM』＜取り組みたい、解決したい問題＞

- ・保育者一人一人の課題を克服するための取り組み。
- ・遊びの伝承にもっと力を入れていきたい。
- ・子どもたち一人一人を大切にするために、職員間での意思疎通や保護者との積極的な面談。
- ・行事など、チームでスムーズに動くために、全員が全体の動きを把握し、当事者意識を高める。また次年度へ向け、詳細な記録をとる。

『TRY』 <PROBLEM に対してどのように行動するか>

- ・アルバンの保育を大切にしながら、新しいことにもチャレンジし、スキルアップを目指す。
- ・子どもたち一人一人に寄り添い、今の姿を認め、自分自身で次へ踏み出せるよう、他の先生との協力体制を整えていきたい。
- ・支援を必要とする子への理解を深めるための努力を続け、より良い対応を見つけていきたい。
- ・自分らしさを大切に、積極的に話す。細やかな心遣いや配慮ができるようになりたい。

③ KPT の後、『CHECK』 <年間テーマ、前学期 TRY に対してどう取り組み、達成度はどれくらい>をホワイトボードを使用して話し合い、その後“朝の集会”、“主体的活動（遊び）”について、次年度への意欲や方向性について考えを出し合った。

◇朝の集会

- ・朝の集会は縦割り保育で、全園児にとって大切な時間だからこそ、全職員の協力体制が必要。
- ・担当の先生に任せるのではなく、“みんなで集会をやろう！”という気持ちでサポートし、子どもたちの大切な成長の場としたい。
- ・教育方針を頭では理解しているが、見守る事、待つ事が難しくもあり、追求していきたい。
- ・ねらいを設定、見える化し、保育者間で共有、またフォローし合える協同性が大切。
- ・子どもはもちろん、保育者も成長できる場として、失敗を恐れずチャレンジできる場にしていきたい。

◇主体的活動（遊び）

- ・想像性を大事にし、日常的に“廃材遊び”ができる空間づくりが必要。
- ・まずは保育者も共に遊び、また活動に積極的に参加する事で、主体的活動へのヒントが得られるのではないか。
- ・例えば、絵本がすぐに手に取れるように・・・など、環境を整えていきたい。
- ・今まで以上に季節を感じ、五感を刺激できるようなねらいを持って保育に取り入れ、テラスや園庭での遊びを充実させていく。
- ・縦割り、また異年齢交流が深められるよう、積極的に保育計画をしていきたい。

④ 学校関係者評価

意見	評価
<ul style="list-style-type: none"> ・“いいね”がいっぱい出て、互いが言い合える環境が素敵！子どもも先生も、不得意なところを認め合い園生活ができています。 ・普段の保育を積み重ねる事、また日々の場面を大事にしている事が、先生方の言葉からわかる。 ・子育ての期間が短いだけに、保護者への働きかけも重要だと思う。 ・一見すごく外れている？ような事も汲み取り、言葉を拾う先生方の姿勢が素敵。 ・子どもたちの自主性を大事に・・・という事は、何もしない事ではない。貴園はきちんと方向づけしている。園長と共に同じ方向を見ている事を感じる。 ・常にここにある、聖アルバン幼稚園。それが一番大事。長い歴史の中にずっとやってきた、しっかりしたものがあるという事が尊い。 	A
<p>今後の課題・・・現在は利用定員の45名を上回っているが、少子化の対策や園児募集について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園をもっと知ってもらうための案内（チラシ）を気軽に手に取れるところに置くなど、積極的工夫をしたらどうか？ ・せっかく良い園なのだから、園バスでの送迎の地域を広げ、もっと多くの人に知ってほしい。 	B

評価（A…十分成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

1. 今年度から『学校評価』への取り組みを始めましたが、1回目という事で、どのように取り組むのが当園らしいのだろうか・・・と考えながら、忙しい日常の合間を縫って職員間で話し合い、今回のような結果を導き出しました。私たち自身は一人一人努力しているものの、まだまだ高い評価はいただけないと感じておりましたが、保護者の皆さまからの行事の感想やアンケート結果もお示しした結果、たとえチームアルバンが一人一人課題を抱えているとしても、同じ方向に向かって努力している事、また保護者の皆さまからの信頼の大きさから高い評価をいただき、恐縮しながらも、職員一同嬉しく、次年度へ向けて歩むための力となりました。
2. 今年度の第一歩としては“いいね”を出し合ったことが大きかったと感じています。これからも職員一人一人の個性を大切にしながら、皆さまに愛される園作りをしていきたいと思えます。また、課題として挙げた、当園をもっと知っていただくための取り組みとして、公式LINEの立ち上げや、就労されている方の幼稚園利用も増えているので、特に2歳児保育の周知も図り、園児募集につなげていきたいと思えます。

園長 成田 綾子